

事業所名

NESTING博多

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

1月

24日

法人（事業所）理念		「自分らしく」 自分らしさを発揮できるよう、学びの多様性を切り開き、異才という輝きを育成する。							
支援方針		支援を必要とする障がいのある児童たちに対し、学校や家庭とは異なる体験を通じて、個々の状況に応じた発達支援を行うことにより児童たちの健全な育成を図ります。 NESTINGの和訳は巣籠もりという意味で、NESTINGで大切にサポートさせていただいた児童たちが元気に成長して巣立っていくイメージでNESTINGとしました。ロゴも燕をモチーフにしており、燕の習性である帰巣本能のようにいつでも戻れる頼れる居場所的な事業運営・支援を目指します。							
営業時間		9時	0分	から	18時	0分	まで	送迎実施の有無	あり
		支援内容							
本人支援	健康・生活	健康管理： 利用者一人ひとりの健康状態を把握し、定期的な体調確認や医療機関との連携を通じて適切な健康管理を行います。また、風邪や体調不良時の対応や感染症予防策を徹底し、安全な環境を提供します。 生活スキルの習得： 衣服の着脱や食事の準備・片付けなど、日常生活に必要なスキルを個別に指導します。たとえば、歯磨きのタイミングや正しい方法を繰り返し練習し、習慣化を目指します。 時間管理と生活リズムの確立： 一日の活動計画を分かりやすく掲示し、活動の切り替えやスケジュール管理をサポートします。これにより、自分で計画を把握し、次の行動に備える力を養います。							
	運動・感覚	身体能力向上プログラム： 運動不足を防ぐため、体幹トレーニングや簡単な柔軟運動を取り入れます。個々の体力や運動能力に応じた活動を行います。 感覚特性への対応： 感覚過敏のある児童に対しては、過度な刺激を減らした環境を整備し、段階的に刺激に慣れる練習を行います。触覚過敏の場合には、柔らかい布やスポンジを使い、少しずつ接触に慣れる取り組みを実施します。 感覚統合療育： 触覚、前庭感覚、固有受容感覚を統合的に刺激する活動を通じて、感覚処理能力を高めます。							
	認知・行動	認知能力の強化： 数字の概念を学ぶために、遊びを取り入れた計算練習や、カードゲームで分類や順序立てを学びます。空間認識能力を高めるためのパズルや積み木も積極的に活用します。 行動パターンの修正： 不適切な行動が見られる場合には、具体的な代替行動を示し、成功体験を積み重ねる機会を提供します。 目標達成力の養成： 短期的な目標を設定し、その達成をサポートします。達成した際には具体的な言葉で褒めることで、自己効力感を高めます。							
	言語コミュニケーション	基礎的な言語スキルの強化： 絵本の読み聞かせや対話を通じて語彙を増やし、正しい発音や文法の使い方を練習します。また、文字を書く練習や読解力の向上を目指し、個々のレベルに応じた教材を活用します。 意思表示の練習： 絵カードやジェスチャーを活用して、自分の気持ちや希望を他者に伝える練習を行います。たとえば、「お腹が空いた」「遊びたい」など、日常生活でよく使うフレーズから練習を始めます。 対人コミュニケーションの向上： グループワークやペア活動を通じて、順番を守る、相手の話を聞く、相手の気持ちを考える練習を行います。							
	人間関係社会性	集団活動への適応訓練： 簡単なゲームや課題活動を通じて、他の児童と協力する楽しさや重要性を学びます。 感情コントロールのサポート： 怒りや不安などの感情を適切に表現する方法を教えます。 地域社会への参加支援： 地域のイベントや公共施設での活動を通じて、社会でのルールやマナーを学びます。							

<p style="text-align: center;"><b>家族支援</b></p>	<p>家庭での支援強化</p> <p>生活相談：家庭内での生活リズム改善や、子育てにおける課題への具体的なアドバイスを提供します。</p> <p>療育の延長：家庭でも継続できる簡単な療育プランを作成し、家庭での実践状況を定期的に確認し改善をサポートします。</p> <p>親子の関係強化</p> <p>親子参加型イベント：工作教室や親子ゲーム大会を通じて、親子間の交流を深めます。また、家庭での子どもとの接し方を学ぶ機会を提供します。</p> <p>感情コントロール支援：子どもの感情表現や親の対応についての具体的な方法（例：落ち着くための手法や励まし方）をアドバイスします。</p> <p>情報提供と連携</p> <p>福祉サービスや医療機関、教育機関の利用方法や最新情報を定期的に共有し、必要な支援の窓口へスムーズにアクセスできるよう支援します。</p> <p>家族の負担軽減を目指し、介護負担が軽減できる行政支援の活用方法を提案します。</p>	<p style="text-align: center;"><b>移行支援</b></p>	<p>学校から社会への移行支援</p> <p>就労準備プログラム： 模擬的な仕事体験を通じて、職場に必要なスキルを養います。</p> <p>社会性の向上： 社会での基本的なルールやマナーを習得するため、挨拶や報連相（報告・連絡・相談）の練習を繰り返します。</p> <p>教育機関への移行支援</p> <p>学校生活復帰のための準備支援： 長期間学校を休んでいる児童には、学習内容の補完や学校環境に馴染むための段階的な取り組みを行います。</p> <p>学校で使う教材を用いた模擬授業や教室と似た環境での学習活動を実施します。</p> <p>学校との連携強化： 教師やスクールカウンセラーとの定期的な情報共有を通じて、学校生活復帰に必要な具体的な支援を計画・実施します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>地域支援・地域連携</b></p>	<p>医療機関との連携</p> <p>定期健診や必要な治療方針について医療機関と情報共有し、利用者の健康維持を支援します。また、必要時に緊急対応ができる体制を整備します。</p> <p>教育機関との連携</p> <p>学校との定期的な連携会議を開催し、子どもの学習進捗や学校生活での課題を共有します。例えば、授業での困難に対応するための教材や教室環境の調整を提案します。</p> <p>地域社会への参加促進</p> <p>地域行事やボランティア活動への参加を通じ、社会の中での役割やマナーを学ぶ機会を提供します。</p>	<p style="text-align: center;"><b>職員の質の向上</b></p>	<p>専門研修の実施</p> <p>年4回の専門研修：発達障がいや療育に関する最新の知識や技術を学ぶ機会を設けます。具体例として、自閉症スペクトラムの特性に応じた支援方法や感覚統合療法についての研修を実施します。</p> <p>チーム内連携の強化</p> <p>定期的なケース会議を開催し、利用者一人ひとりの状況を共有。全職員が共通理解を持つことで、支援内容の質を向上させます。</p> <p>職員間のフィードバック制度：職員同士での相互評価を取り入れ、日々の支援方法の見直しと改善を行います。</p>
<p style="text-align: center;"><b>主な行事等</b></p>	<p>季節のイベント</p> <p>春：お花見会や野外遊びの日を設け、自然に触れる機会を提供します。</p> <p>夏：夏祭りなど、季節感を楽しむ活動を実施します。</p> <p>秋：ハロウィンパーティーや秋の工作教室で創造力を養います。</p> <p>冬：クリスマス会などを通じて、季節の行事を体験します。</p> <p>学習支援活動</p> <p>工作イベント：工作を通じて手先の器用さを育み、完成した作品を披露することで自己肯定感を高めます。</p> <p>勉強会：指導形式で算数や国語の基礎力を高め、学習の楽しさを伝える時間を設けます。</p> <p>社会体験</p> <p>公共施設見学：図書館や博物館などの見学を通じ、社会のルールを学びます。</p> <p>地域活動：地域イベントへの参加で、社会とのつながりを意識させます。</p>		